

Uスマート推進協議会

【地方公共団体:宇都宮市 民間事業者等代表:国立大学法人宇都宮大学】

- 整備を進めているLRTを軸とした公共交通ネットワークの構築による効果の最大化により、超高齢化・人口減少社会においても誰もが快適に移動できる環境づくりが課題。また、世界的な観光地を目指し、「大谷地域」の観光振興が必要。
- 分野横断型のプラットフォームと連携した「デジタルツイン都市モデル」の構築を推進するとともに、最先端のICTを活用した交通・経済のエリアマネジメントにより、大谷地域観光、モビリティサービス等の課題解決の取組を推進。

◆対象区域

LRT沿線地区を軸として市域全体を対象

【宇都宮市全体図】



【LRT沿線(対象区域)】



◆事業実施体制

| 構成メンバー | 主な役割 |
|----------|---|
| 宇都宮市 | ・事業統括、協議会の運営(事務局) ・実証実験の場の提供、施設の見守り |
| 共同研究者 | ・宇都宮大学 ・早稲田大学 ・データ・プラットフォームの活用手法の検討 ・デジタルツイン都市モデルの活用手法の検討 ・実証実験への協力(技術的支援) |
| 情報提供等協力者 | ・あいおいニッセイ同和損害保険 ・東アバンアソシエイツ ・宇都宮市 ・国立大学法人 宇都宮大学 ・宇都宮ライトレール ・朝日NTTコム ・関西電力 ・関東自動車 ・共同印刷 ・KDDI ・朝日JTBコミュニケーションデザイン ・朝日野新聞社 ・東京ガス ・日本電気 ・朝日NEZASホールディングス ・東日本電信電話 ・朝日システムズ ・富士通 ・本田技研工業 ・三井情報 ・三井住友海上火災保険 ・三井住友ファイナンス&リース ・朝日三菱総合研究所 ・早稲田大学 |
| 連携協力先 | ・早稲田大学・宇都宮大学 ・KDDI (JST補助事業) ・データ・プラットフォームの構築・運用 ・デジタルツイン都市モデルの構築・運用 ・データ分析・シミュレーションの検討 ・GPS位置情報等の提供 ・「宇都宮版MaaS」の構築に向けた調査・分析 |

◆新技術・データを活用した都市・地域の課題解決の取組

大谷地域の観光振興

- ・センシング技術の同時多接続やGPS位置情報を活用し、自動車交通量や駐車場の混雑状況、観光客の回遊ルート等の交通・人流データを収集
- ・将来的には、自動運転のグリーンスローモビリティの導入やデータのオープン化による大谷地域における商業活性化を支援



スマートエネルギーマネジメント

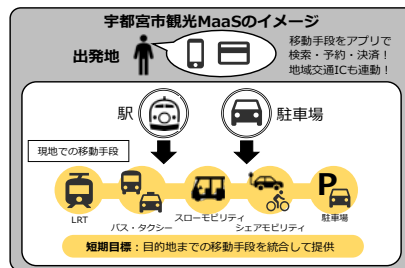
- ・電力ビッグデータを活用した小区域内における電力の見える化
- ・将来的には、地域新電力会社によるバイオマス発電の電力等をLRTや公共施設等へ供給

◆2019年度の主な取組

- ・自動運転のグリーンスローモビリティを活用したパーク&ライド等の実証実験
- ・中心市街地で開催されるイベントでの顔認証技術を活用したサービス提供の実証実験

スマートモビリティサービス

- ・交通事業者と連携した大谷地域を目的地とする「観光型MaaS」の導入
- ・将来的には、LRTを含む「宇都宮版MaaS」への発展



スマートホスピタリティ

- ・市内のビッグイベントにおいて、顔認証技術等を活用した人の流れや属性の把握を実証
- ・将来的には、顔認証技術や、人流データ活用による混雑予測による誘導ルートの設定などにより、来訪者の満足度を向上

データプラットフォーム

- ・宇都宮大学と早稲田大学等が研究と構築に向け取り組んでいる「データ・プラットフォーム」及び「デジタルツイン都市モデル」の活用を視野に入れた交通・人流等のシミュレーションを実施
- ・将来的には、分野横断的に収集したビッグデータの活用により、サイバー空間上でソフト・ハード両面でまちづくりの取組を複合的にシミュレーションし、その結果を実際の取組としてフィジカル空間に反映させる仕組みを構築

